



株式会社丸八テント商会

取締役 ▶ SATO MIZUKI

佐藤 水紀さん

ものづくりと人づくりの二軸で、
オンリーワンの喜びを創造し続ける

受け継がれた発想と
行動力で時代に
寄り添うものづくり

当社は、戦後間もない昭和26年、曾祖父がリヤカー用のテントシートを扱ったことからスタートしました。そして2代目の祖父が、名古屋市に対して、繊維問屋街を覆うアーケードテントを提案したことで大型テントの技術開発が始まりました。店先だけでなく歩道まで覆う構造は、「名古屋根」と呼ばれ、名古屋特有の街並みを形づくる存在です。3代目の父は、

世界各地を巡ってデザイン性の高いテントを学びました。また、私が大学生の頃、インターンシップに行ったことをきっかけに、当社にも長期インターンシップを導入。海外へ出向いて英語を実践的に活用したり、新規事業の立案からテントの納品まで社員と変わらない裁量権で取り組んでもらい、直近10年で100名以上の大学生を受け入れるまでに拡大しました。

なりました。創業74年を迎えた今も、社員一人ひとりが創意工夫を重ね、時代に寄り添うものづくりに挑戦しています。

ものづくりの楽しさを
次の世代へ伝え、
人を育てる

当社の強みは、テント膜構造物の企画から販売までを自社で一貫して行ない、全国のお客様へ提案可能なところ です。設計事務所や建築家の難しい要求にも誠実に応え、細部まで品質にこだわり抜いてきました。お客様の様々な要求に応えるためにも、日頃から社員同士のコミュニケーションを大切にし、時にはぶつかりながらも互いを高め合い、連携をとっています。

強みの根幹である「人」を集め育てること、また、ものづくりの楽しさを次世代へ伝えることにも注力しています。インターンシップは、大学生に限らず、高校生、留学生、外国人材へ展開し幅広く受け入れるようにしていたり、自社で企画したデザインコンペは海外の大学からも参加いただいています。将来の進路や自身の関心事を見つける手助けを目的としたSDG Sワークショップでは、テント製作の過程で生まれる端材を活用したトートバッグ製作を実施し、ものづくりの

楽しさを中高生に伝えています。さらに、高校で行なっていた出張授業は現在、小学校でも実施し、社会と企業、学びと仕事をつなぐ取り組みは広がり続けています。

このような活動が実を結び、従業員20名前後の会社でありながら、今年度は高卒生3名、外国人材2名の入社につながりました。

多様性を活かして
創造する
オンリーワンの喜び

近年、当社が注力しているのはダイバーシティ経営です。毎日、日本で働きたい海外在住の方とオンラインで面談を重ねています。ほかにも、フィリピンに行つて面接を実施したり、インドを訪れ市場調査をするなど、文化や考え方の違いに触れ、外国人材の強みを活かすことで、テント事業に新しい発想と価値を生み出しています。

今年開催された大阪・関西万博では、愛・地球博の時よりも多くの施工に携わることができました。これは、当社の多様な社員で創り上げる施工が評価された結果だと思っています。これからも、多様な価値観を尊重しながらテント施工へと活かし、オーダーメイドのものづくりで「オンリーワン」を創造する企業であり続けます。

Column

＼愛用のアイテム紹介／

方眼ノートと青色のペン



スケッチを描いたり、線を引くのには便利で気に入っている方眼ノート。青いペンは、青が記憶に定着しやすいと中学生の頃に知り、ペンの世代交代はあるものの、苦楽をともにする20年以上の相棒です。

Company Data | 会社概要

株式会社丸八テント商会

株式会社丸八テント商会

〔創業〕1951年
〔所在地〕名古屋市中区栄5-7-10
〔TEL〕052-251-6731
〔URL〕<https://08tent.co.jp/>



〔事業内容〕膜材(テント)を使用した構造物および産業用資材のデザイン・企画・設計・製造・施工



完成した時、パビリオンの皆さんの笑顔が印象的だった大阪万博のハンガリーパビリオン(写真上)。インターン生がインドを訪れ市場調査やプレゼンを行ないスキルアップを図っています(写真右下)。テント製作の中で生まれる端材を活用したトートバッグ(写真左下)。